

2015.07.13-2 阿蘇市・的石御茶屋跡





的石御茶屋跡駐車場



隼鷹天満宮（はやたかてんまんぐう）の鳥居



# ASO 田園空間博物館

みんなでつくろう！ 屋根のない博物館

22

はやたかてんまんぐう  
隼鷹天満宮



祭神 菅原道真  
鎮座地 的石

肥後藩主、細川綱利公(1661年～1712年)が参勤交代のため船で江戸に向かっている時、天候が悪化し激しい波に船が呑まれようとした。その時、一羽の白鷹がどこからともなく船柱に飛んできた。すると荒れ狂う波はたちまち静まり、つつがなく渡航を終えて無事に上陸することができた。

藩主その夜、旅宿で白鷹は的石天満宮の現化(神仏などが形を変えてこの世に現れること。)との神諭を夢見、その靈験のあらたかなるを感じ、京都で社殿建立を命ぜられた。昔は境内に茶房まで置かれたが、今はその面影をわずかに残しているだけである。

本殿にある絵馬は享保元年(1716年)12月に国主であった細川宣紀公が奉納した。同じく鶴の額は天保13年(1842年)11月25日に細川斉護公により奉納されたものである。

祭日は11月25日であったが、現在の的石地区では総ての祭日を11月23日に統一して行っている。



平成23年度 ASO 田園空間博物館 サテライト支援事業



## 的 石 御 茶 屋 跡 ( 史 蹟 )

この御茶屋跡は、肥後藩主が参勤交代に使った豊後街道の通過地点で、大津をたつた殿様一行が、二重の峠をこえ、石畳の坂道を降りてきて休憩昼食をとったところである。屋敷内は、今も当時の面影をしのばせ代々御茶屋番をつとめた小糸家は現当主で、13代目である。家敷内には、北外輪山からの伏流水で泉水が形づくられ、「御茶屋泉水」として、くまもと名水百選に選ばれている。

Matoishi Tea House is known as an important, historic spot that has been survived since the feudal era of Tokugawa regime. Higo (feudal name for Kumamoto prefecture) feudal lords, generation after generation used to stop by at this comfortable tea house with their retainers. They usually started off their pilgrimage, long trip to Edo (feudal name for Tokyo) from Ozu. (Sankinkōtai) Starting off from Ozu, they went through Bungo path way and passed over the peak of Futae ridge. One of the most awaited moment for all exlusted followers was naturally a tea time. They took some rest and had a heartfui lunch at this tea house.

There is a garden pond in the backyard of the house. The pond was shaped by riverbed water from the north part of the Somma. It is chosen as one of the famous hundred underflows.

The inside of the house is still restored by the Koito family. The thirtcenth Koito family today is pround of their constant work of restoring this historic spot generation after generation.

## Matoishi Tea House



熊本県



市指定史跡  
的 石御茶屋跡 (庭園)  
平成十六年五月十九日指定











# 隼鷹天満宮

## 祭神菅原道真

由緒、肥後藩主、三代細川綱利公（一六六二年〜一七三三年）が参勤交代のため、船で東上の折嵐に会い、船は難航した。その時船柱に一羽の白鷹がとまり、嵐は静まった。その夜藩公は夢にその白鷹は、的石天満宮の現化との神諭を受け、靈験のあらたかなるを感じられ、京都にて神殿建立を命ぜられた。昔は境内に茶房まで設けられていた。社内には四代藩主細川宣紀公（一七二六年）と十代藩主細川奇護公（一八四二年）の絵馬と額が奉納されている。

元禄十年（一六九七年）社殿再興  
昭和五十年 神殿改築

阿蘇町文化財保護委員会

氏 子 一 同

阿蘇郷土の会

昭和五十四年十二月



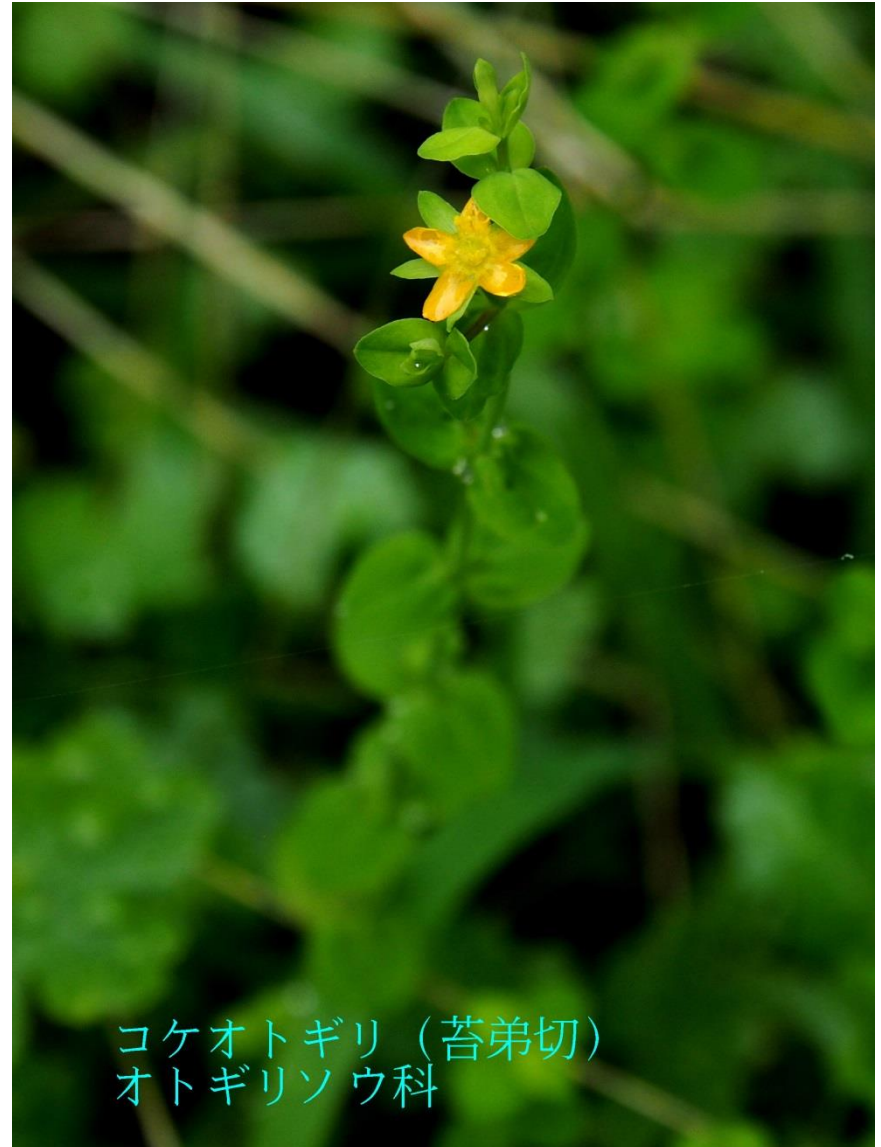
隼鷹天満宮（はやたかてんまんぐう）



マダダビ (木天蓼 (「もくてんりょう」とも読む))

マダダビ科 落葉蔓性木本 別名：夏梅

「苔」は、花や葉がとても小さいことを、コケになぞらえたものである、というのが一般的です。「弟切草」とは物騒な名前です ... その時の血しぶきがオトギリソウにかかって油点になったとされています。



山林内に生えるキツネノマゴ科の多年草。和名は葉黒草の意で、葉が暗緑色であることによると思われる。(出典:世界大百科事典)



ハグロソウ (葉黒草)  
キツネノマゴ科